

## 4 交通計画の進め方と関係者の役割

### 4-1 計画の目標指標及び達成状況の評価

#### (1) 評価方法

本計画に基づき、各種施策を実施し、施策の進捗確認や評価及び評価結果の国への報告を2年目以降、毎年度実施して、都度、施策の見直しや改善を繰り返し行い、本町が目指す将来像実現のため、進捗管理を実施します。

初年度	2 年目	3 年目	4 年目
詳細計画検討	進捗確認・評価及び 国への報告	進捗確認・評価及び 国への報告	進捗確認・評価及び 国への報告
実施事業	改善、事業実施	改善、事業実施	改善、事業実施

#### (2) 評価項目

地域公共交通計画等の作成と運用の手引き第4章に記載の標準指標及び本町の地域内交通である町営バス「コミュニティバスひまわり」の利用者人数及び予約型乗合交通の利用者人数を評価項目に加える。また、京都府北部地域連携都市圏公共交通計画にも挙げられている、公共交通の利用機会を増やすことの目標値として、お試し乗車会の実施件数・延べ参加人数も評価項目としている。

項目	目標値の考え方
①住民等の公共交通の利用者数	コロナ禍で落ち込んだ利用人員を徐々に戻していくため、令和3年度比(※)で利用者数の5%向上を図る
②公的資金が投入されている公共交通の収支率	コロナ禍で落ち込んだ運賃収入を徐々に戻していくため、令和3年度比(※)で収支率の5%改善を図る
③利用者一人当たりの公的資金投入額	利用者増による運賃収入の増加を図り、利用者一人当たりの公的資金投入額を、令和3年度比(※)で5%縮小を図る
④お試し乗車会の実施件数・延べ参加人数	公共交通の利用機会を増やすため、徐々にお試し乗車会の実施件数も増やしていき、参加人数を令和8年度で年30人参加を目指す。

※京都府北部地域連携都市圏公共交通計画との整合性を図るため令和3年度に設定します。

## 各評価項目の現況と目標値

### 【 ①路線別利用者人数 】

(幹線系統)

運行主体	系統名	現況利用者数 (令和 3 年度)	目標利用者数 (令和 8 年度)
丹後海陸交通	伊根線	103, 870	109, 063
	蒲入線	31, 378	32, 946
	与謝線	55, 272	58, 035
	峰山線	51, 039	53, 590

(市町間を跨ぐ路線)

運行主体	系統名	現況利用者数 (令和 3 年度)	目標利用者数 (令和 8 年度)
丹後海陸交通	福知山線	12, 775	1, 3413
	峰山四辻線	19, 935	20, 931

(地域内交通)

運行主体	系統名	現況利用者数 (令和 3 年度)	目標利用者数 (令和 8 年度)
与謝野町 コミュニティ バスひまわり	奥滝線	—	650
	加悦奥線	—	250
日本交通	岩屋線・山田線	—	2, 500
	石川線	—	550
地域運営組織	桑飼エリア	—	2, 700

### 考え方

奥滝線：R4 乗降調査与謝地域利用 40% R4 実績 1,503 人×0.40×1.05=631 名

加悦奥線：R4 乗降調査加悦奥地域利用 15% R4 実績 1,553 人×0.15×1.05=245 名

岩屋線：町営バス岩屋線（R4 実績 876 名 ×1.05 = 919.8 ⇒ 920 名）

山田線：月利用者見込み 62 名×2×12 カ月=1,488 人× 1.05 = 1,562 名

石川線：町営バス石川地域利用見込み 350 名×増便効果 1.5 倍 ×1.05 = 551 ≒ 550 名

桑飼エリア：9 人/日利用見込み×週 6 日運行×4 週×12 カ月=2,592 名×1.05 =2,721 名

【 ②公的資金が投入されている公共交通の収支率（地域間幹線系統） 】

運行主体	系統名	収入額	支出額	現況収支率 (令和 3 年度)	目標収支率 (令和 8 年度)
丹後海陸交通	伊根線	8,602,705	51,477,450	16.7%	17.5%
	蒲入線	12,179,199	51,803,611	23.5%	24.6%
	与謝線	8,157,472	35,893,005	22.7%	23.8%
	峰山線	6,176,894	23,798,948	25.9%	27.1%
	福知山線	4,452,943	11,929,482	37.3%	39.1%
	峰山四辻線	3,464,327	14,741,284	23.5%	24.6%
与謝野町 コミュニティ バスひまわり	奥滝線	—	—	—	3.7%
	加悦奥線	—	—	—	1.4%
日本交通	岩屋線・山田線	—	—	—	25.0%
	石川線	—	—	—	5.5%
地域運営組織	桑飼エリア	—	—	—	40.5%

考え方

奥滝線：（運賃 200 円×650 人）収入見込み 130,000 円÷運行見込み 3,500,000 円＝3.7%

加悦奥線：（運賃 200 円×250 人）収入見込み 50,000 円÷運行見込み 3,500,000 円＝1.4%

岩屋線・山田線：（運賃 300 円（仮）×2,500 人）収入見込み 750,000 円÷  
運行見込み 3,000,000 円＝25%

石川線：（運賃 300 円（仮）×550 人）収入見込み 165,000 円÷運行見込み 3,000,000 円＝5.5%

桑飼エリア：（運賃 300 円（仮）×2,700 人）収入見込み 810,000 円÷  
運行見込み 2,000,000 円＝40.5%

### 【 ③利用者一人当たりの公的資金投入額 】

運行主体	系統名	現況支援額 ( 令 和 2 年 度)	現況利用者数 ( 令 和 2 年 度)	利用者一人あ たり公的資金 投入額現況値	利用者一人あた り公的資金投入 額目標値
丹後海陸交通	伊根線	26,309,000	114,615	229	218
	蒲入線	19,562,000	38,074	513	487
	与謝線	16,853,000	43,412	388	369
	峰山線	9,804,000	41,581	235	223
	福知山線	6,516,539	12,275	530	503
	峰山四辻線	4,974,957	19,935	249	237
与謝野町 コミュニティ バスひまわり	奥滝線	—	—	—	5,384
	加悦奥線	—	—	—	6,363
日本交通	岩屋線・山田 線	—	—	—	1,200
	石川線	—	—	—	5,454
地域運営組織	桑飼エリア	—	—	—	740

### ④お試し乗車会を通じた固定観念の転換

与謝野町が実施するお試し乗車等の件数及び参加人数

■令和4年度現況値 お試し乗車会等の利用促進事業 開催0件 参加 0名

■令和8年度目標値 お試し乗車会等の利用促進事業 年間2件 参加30名

## 4. 2 計画の実施及び進行管理の体制

本計画を推進するにあたっては、地域住民、交通事業者、行政が相互に理解し、連携しながら施策に取り組むことが必要不可欠となります。ここでは、それぞれに求められる役割について整理します。

### (1) 地域住民

持続可能な公共交通について自分事として捉え、積極的にイベント等公共交通施策への関わり、理解、協力が求められる。

### (2) 交通事業者

引き続き、安全・安心な運行サービスの提供に努め、利用者満足度がさらに向上する取組を積極的に行う。また、持続可能な公共交通を確保維持のため、先進技術等を活用した新たな取り組みに対して積極的に検討を行う姿勢が求められる。

### (3) 行政

本計画が着実に推進されるように、交通事業者、地域住民、その他関係者との調整、連携のほか、取組の情報発信を積極的に行うなど、計画推進の中心的役割が求められる。

また、行政の交通担当のみが施策を進めるのではなく、健康、福祉、教育、環境など、様々な担当と横断的に協力し、施策を進めていく姿勢が求められる。